

市制施行30周年

大好き、

つるがしま



まきひろむ
万木大夢さん
 (陸上)

新町小学校(6年生時に渡米)、Dublin Scioto High School出身
 昌平高等学校3年生
 令和3年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)男子400m出場

Believe in yourself!
 ~自分を信じて~



陸上の楽しさと出会う
 渡米から1年ほど経ち、クラブチームでサッカーを始めます。アメリカでは、日本のように専門的に一つのスポーツを行うのではなく、季節ごとに様々なスポーツに取り組み、自分の力を伸ばします。万木さんも、陸上は「友達に誘われて、サッカーのトレーニングの一環として始めた」そう。ところが、初めて出場した大会で、「100E、200E、400Eに出たんですけど、全部勝てたんです」と、いきなり才能を開花させます。陸上の楽しさを感じた万木さん、本格的に陸上に興味を抱くようになります。

自分に勝つ強さ
 結果、見事同じ大会で優勝し、リベンジを果たした万木さん。「自分をどれだけ追い込めるかが勝負。個人競技なので、自分しか責任がないんです。タイムが出なければ自分のせいだし、逆に、やったことがコンマ何秒まで結果として出る。自分はこれだけやってきたんだと自信を持って試合に臨んでいます」と語ります。日々の練習に後悔を残さないことが、揺るがぬ自信としなやかな強さに繋がっています。

もっと強くなるために

今後は、「コーチや先輩など、強い人に囲まれた環境で頑張りたい」と、陸上での大学進学を目指します。さらなる成長の場へ、一歩一歩、自分を信じて。

アメリカでの暮らし
 父親の仕事の都合で、小学6年生(アメリカの中学1年生)のときに渡米し、日本人学校のない地域に住むことに。「現地の中学校に入って、そこから約5年間オハイオ州にいました。最初は英語も話せず、ずっとお父さん頼りみたいな感じで」と笑顔で振り返ります。友達とのふれあいの中で、1年くらいで感覚的に英語を覚えたという万木さん。その屈託のない笑顔とコミュニケーションに対する積極的な姿勢が、アメリカでの大きな成長を後押ししたのでしよう。

400mという種目

この種目を選んだ理由について尋ねると、「きつい種目なので、やりたくなくて逃げてたんですけど(笑)」と、恥ずかしそうに胸の内を明かしてくれました。転機となったのは、帰国後に出場した東部地区大会。「400mで予選落ちしちゃって。すごく悔しくて、同じ大会でリベンジしたいと思っただんです」と、悔しさをバネに奮起を誓います。

編集後記

市制施行30周年の節目にあたり、生まれ育った鶴ヶ島のあゆみを振り返るのは、非常に感慨深いものがありました。皆さんも、ぜひ年表にご自身を重ねながら、思いを馳せてみてください。そしてここから、10年後、20年後に向かって、鶴ヶ島の新たな歴史が始まっていきます。皆さんは、どんな未来を描きますか?

ご意見・ご感想は秘書広報課広報担当へ
 ☎10200001@city.tsurugashima.lg.jp



仲良し兄弟♪

あべゆづき
 阿部悠月ちゃん(0か月)
 かんと
 叶翔ちゃん(3歳10か月)



笑顔の天使



離乳食が始まりました♡
 つゆのは
 鐵結乃葉ちゃん(5か月)